ISSN 0389－0392

植物防疫所
病害虫情報
No.28
1989.3.15

最近における輸入切花の動向

近年、船舶や航空機が大型化するとともに、そのスピードアップが図られ、また、定期航路のコンテナ化が進展するなど輸送手段及びサービス網の発達に伴って、世界各地から新鮮な産品が迅速かつ大量に輸入されるようになり、その種類も飛躍的に増加している。これらの中で切花は、社会経済の発展と生活水準の向上につれて輸入量も大幅に伸びており、生花店やスーパーマーケットなどの店頭では国産品に混じって多種多様の輸入切花が目立って増えてきている。

輸入の動向　わが国の切花の輸入は、1983年8,500万本であったものが、年々10～30％の伸びを示し、1987年は5年前に比べて2.3倍の2億本に達しており、さらに増加の傾向にある（図参照）。

切花を日本へ輸出している国は約70か国を数えるが、主な国はタイ、アメリカ合衆国、台湾、オランダ、シンガポールなどであり、これらの5か国で全体の89％を占めている。なかでも、オランダから輸入された切花は1,988万本で、1983年の輸入実績（75万本）の26.5倍に急増している。これは、輸入後一刻も早く流通経路に乗せたいとするオランダ側の要請に基づいて、輸出国において、日本の植物防疫官が検査する新しい輸出前検査確認システムが導入されたことが一因と考えられる。

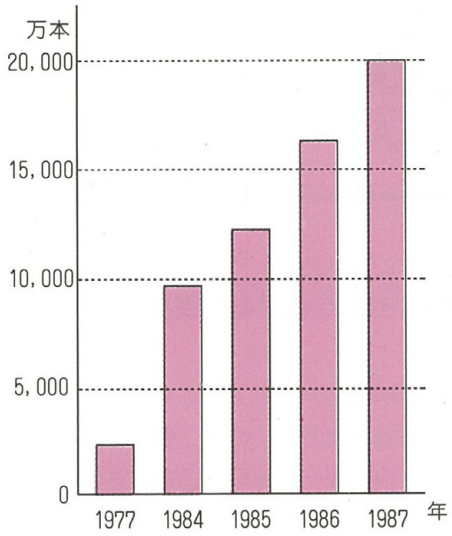
検査実績　1987年に輸入された切花は前述のとおり約2億本であるが、検査の結果、約29％に当たる5,700万本に害虫が発見されて青酸ガス又は臭化メチルのいずれかでくん蒸された。また、21万本が病原菌寄生などにより焼却処理された。

輸入される切花の種類は200種以上に及ぶが、その主なものは、タイ、シンガポールなどからのランが圧倒的に多く全体の42％を占め、アメリカ合衆国、タイなどからのシダ、ベアーグラス（切葉）が　21％、台湾などからのキク　14％の順となっている。オランダからは、フリージア、ユリ、ネリネなどの球根・草花やカーネーションが多い。

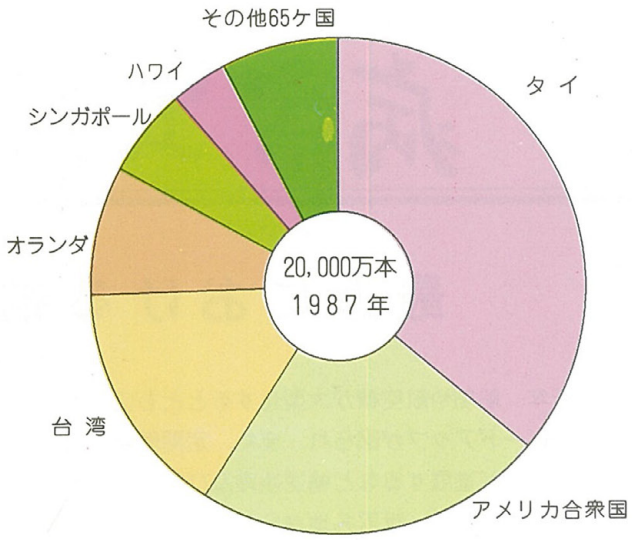
切花の輸入検査

発見病害虫の調査

農林水産省



輸入切花の検査実績の推移



生産地別輸入実績

これらの切花はほとんどが航空貨物で輸送されてくるが、鮮度保持が比較的容易なアメリカ合衆国産のシダ、ベアーグラス、台湾産のキクなどは国内の市況をみながら主として海上コンテナで輸入されている。

発見病害虫　輸入検査で発見される害虫はハダニ、アザミウマ、アブラムシなどの微小害虫（表参照）をはじめカイガラムシ、カメムシ、ハマキガ、ヤガ、ゾウムシなどの種類が多い。この他わが国が侵入を警戒しているフラーバラゾウムシやキンケクチブトゾウムシなどの重要な害虫が、本来の寄主となっていない切花から発見される事例もある。また、これらの害虫の態は成虫、蛹、幼虫、卵とさまざまであり、栽培ほ場での発生状況をそのまま反映しているといえる。

切花はその鮮度を保つため、収穫後、短時間のうちに航空機などで、わが国へ輸入されるので、同時に活力のある病害虫の持ち込みの危険性が高いことから、輸入検査に当たっては細心の注意を払い、その侵入防止に努めている。

輸入切花から発見された主な微小害虫

害虫名	主な輸出国	寄主植物
（ハダニ類）		
Tenuipalpus pacificus Baker	タイ、シンガポール	ラン、カーネーション
（アザミウマ類）		
Dichromothrips corbetti (Priesner)	タイ、シンガポール、ハワイ	ラン
Frankliniella occidentalis (Pergande)	アメリカ合衆国、オランダ、ハワイ	ワックスフラワー、カスミソウ、カーネーション
F. schultzei (Trybon)	オーストラリア、南アフリカ、オランダ、タイ、ハワイ	ハナニラ
Limothrips cerealium (Haliday)	オーストラリア、オランダ	アスチルベ、キク、チューリップ
Thrips australis (Bagnall)	アメリカ合衆国、ニュージーランド	アセビ、ワックスフラワー
T. imaginis Bagnall	オーストラリア、ニュージーランド	アスパラガス
T. obscuratus (Crawford)	ニュージーランド	カラー
（アブラムシ類）		
Macrosiphum rosae (L.)	オランダ、オーストラリア	バラ
Myzus certus (Walker)	フランス	カーネーション
Sitobion luteum (Buckton)	台湾	ラン

農林水産省